

# 「中村<sup>つね</sup>彝アトリエ保存会」設立趣意書

2007年(平成19)3月1日

大正期を駆けぬけた日本を代表する洋画家に、中村彝(なかむらつね / 1887 ~ 1924年:享年37歳)がいます。『エロシエンコ氏の像』(国重要文化財)をはじめ、『老母像』、『田中館博士の肖像』、『髑髏を持てる自画像』、『目白風景』各作品など、当時の洋画界においては先端をいく仕事をした芸術家です。中村彝のアトリエは、当時、今村銀行の今村繁三や成蹊学園の中村春二、洲崎義郎の支援をうけ、豊多摩郡落合村大字下落合の、当時は「林泉園」と呼ばれた谷戸上、下落合464番地へ1916年(大正5)8月に建設されました。

1923年(大正12)9月の関東大震災にも倒壊せず、また1945年(昭和20)5月の山手空襲による延焼からもまぬがれ、90年の時を超えて中村彝が暮らし、創作活動をつづけたアトリエは新宿区下落合3丁目の同所に、奇跡的に現存しています。洋画家・鶴田吾郎との競作による『エロシエンコ氏の像』は、まさにこのアトリエで描かれました。昨年の夏から秋にかけて行われた、新宿区教育委員会による調査(実施・早稲田大学)でも、アトリエ建築の先駆けともいべき貴重な建築物であることが、「建造物調査概要報告書」の中でも指摘されています。

1970年代より過去3回にわたり、アトリエにお住まいの方がその保存を求めて新宿区へ働きかけてこられました。そのつど区側に受け入れてもらえず現在にいたっています。建物の老朽化による限界、あるいはお住まいの方のご都合などもあり、これがアトリエ保存へ向けた最後のチャンスではないかと思われ。つきましては、地元の住民をはじめ、中村彝アトリエの保存を求める各界における数多くの方々のご賛同を得て、ここに2007年3月1日付けで「中村彝アトリエ保存会」を発足させる運びとなりました。できるだけすみやかに保存が実現するよう、新宿区をはじめ各方面へ働きかけていくことを活動の主目的としています。

日本の美術史上あるいは建築史上でも、きわめて重要な位置を占める中村彝アトリエの保存というテーマは、新宿区という一地域の課題をはるかに超え、全国規模の貴重な文化遺産の保存へとつながる大きなテーマではないかと考えます。わたしたちの活動がきっかけとなり、地域を超えたアトリエ保存を願う大きなうねりとなれば幸いです。

ぜひ、みなさまの多大なご支援・ご協力を、よろしく願い申し上げます。

## 中村彝アトリエ保存会 事務局

<http://blog.so-net.ne.jp/tsune-atelier/>

FAX:03-6323-0021

### 設立メンバー

故・梶山 公平(中村彝会会長/茨城県水戸在住)  
野口 眞利(中村彝会/医師/練馬区在住)  
安達 以作(アダチ版画研究所/新宿区下落合)  
山本 祐靖(東大名誉教授/新宿区下落合在住)  
坂本 望(歯科医師/新宿区下落合在住)  
生江 ゆかり(新宿区下落合在住)  
植田 崇郎(建築家/新宿区下落合在住)  
酒井 正義(新宿区下落合在住)  
加藤 珪(新宿区下落合在住)  
筒井 一郎(目白バ・ロック音楽祭/新宿区下落合)  
小池 一子(武蔵野美術大学名誉教授/新宿区下落合在住)  
鈴木 祐子(新宿区下落合在住)  
霜田 文子(新潟県柏崎市在住)  
柴野 穀実(越後タイムス編集・発行人/新潟県柏崎市在住)  
北沢 友宏(新宿区下落合在住)

事務局およびボランティアのスタッフを募っています。

「保存会」の事務活動費として1口1,000円以上の寄付をお願いしています。ご協力いただければ幸いです。

口座名:「中村つねアトリエ保存会」 記号:00110-9-614801

### 事務局

今井 茂子(新宿区下落合在住)<事務局長>  
生江 ゆかり(新宿区下落合在住)  
植田 崇郎(新宿区下落合在住)  
竹内 里美(豊島区在住)  
安藤 三春(三春堂ギャラリー/新宿区下落合)  
藤田 孝(新宿区下落合在住)  
北沢 友宏(新宿区下落合在住)

### ツネアトリエ・ボランティア

竹内 千里(豊島区在住)  
清水 透子(府中市在住)  
川島 滋子(世田谷区在住)